

令和 4 年 12 月 7 日

行政政策学類 今西一男教授が 「2022 年度都市住宅学会賞・論文賞」を受賞

行政政策学類の今西一男教授は、公益社団法人都市住宅学会から、2022 年度都市住宅学会賞・論文賞を受賞しました。学会誌『都市住宅学』第 115 号に掲載された「小規模区画整理による遊休地再編の現状と課題」が、都市住宅学に顕著な貢献をしたものとして評価されたものです。

【受賞概要】

受賞名：2022 年度都市住宅学会賞・論文賞

対象業績：「小規模区画整理による遊休地再編の現状と課題」（単著、都市住宅学会編集・発行、『都市住宅学』、第 115 号、pp. 144-149、2021 年 10 月）

【受賞対象の概要など】

本研究は昨今増加する都市の遊休地の再編を企図した、「小規模区画整理」の特徴と論点を整理したものです。都市にランダムに生じる遊休地を有効に活用するため、小規模な施行地区を設けて土地区画整理事業の換地を適用し、再編する可能性について検討しています。その際、小規模ゆえの計画的な位置づけ、合意形成、プロセス、建築物の整備を含めた資金計画など、事業化に向けた課題が複数あることを、敷地整序型区画整理と「空間再編賑わい創出事業」という二つの比較から示しています。

都市住宅学会学会賞委員会の選考経過報告によると、2020 年 4 月（第 109 号）～2021 年 10 月号（第 115 号）の学会誌に掲載された論文など 24 編について一次審査を行い、通過した 16 編を対象に二次審査を行った結果、本研究を含む 2 編を論文賞候補として選考し、最終的に「いずれも都市住宅に関する学術の向上・発展に大きく貢献する著作等であり、都市住宅学会賞にふさわしいものであると承認」されたものです。

なお、本研究の選考理由は下記のとおりです。

都市構造の集約化に向けた取組が全国で進められる中、都市機能の集約先の既成市街地には、遊休地がランダムに存在し、接道不良等も相まって有効活用が妨げられている。本研究は、既成市街地における遊休地の再編と利活用促進に活用が期待される、土地の交換分合を主体とした小規模区画整理事業について、全国的な実施状況の分析を通じ、今後の運用改善に向けた知見を提供

している。

具体的には、既に活用実績のある敷地整序型区画整理は、関係権利者の全員同意を要するため区域が小規模化する傾向にあることや、建築物の整備を含めた事業採算の見通しが立てづらく基盤整備に止まること、一方、空間再編賑わい創出事業は、関係権利者に強制力があり全員同意を要しない反面、事業の立地適正化計画への位置づけや誘導施設の実現といった高度な並行作業が求められること等を、今後の運用改善に向けた課題として明らかにしている。

以上の理由により、都市住宅学会賞論文賞にふさわしいと評価される。

【都市住宅学会の概要】

都市住宅学会は、建築学、住居学、都市工学、法学、経済学、政治学、社会福祉学、教育学、社会学、心理学など、多様な学問領域を総合した学際学会として1992年11月に設立された学会です。設立当初から、学際的研究を促進するとともに、実証的研究だけではなく、居住空間や社会システムの望ましいあり方を探求する規範的研究の促進も目標としている学会です。2022年10月現在の会員数は1,185名となっています。

(お問い合わせ先)

行政政策学類・教授 今西 一男

電話：024-548-8289

メール：imanishi@ads.fukushima-u.ac.jp

2022年度都市住宅学会賞・論文賞 受賞について

今西一男（行政政策学類教授）

・対象業績

「小規模区画整理による遊休地再編の現状と課題」
（単著、都市住宅学会編集・発行、『都市住宅学』、
第115号、pp. 144-149、2021年10月）

・受賞者の研究分野

都市計画論、都市社会学、社会調査論

